

# 愛知万博を支援する新瀬戸焼商品開発

## - 愛知万博のための土産品の商品開発 -

生浦京子<sup>\*1</sup>、榊原晴勝<sup>\*2</sup>、矢野 強<sup>\*2</sup>、長谷川恵子<sup>\*2</sup>、戸田敏一<sup>\*3</sup>

### Design of Ceramic Souvenirs for EXPO 2005 AICHI

Kyouko IKUURA, Harumasa SAKAKIBARA, Tuyosi YANO, Keiko HASEGAWA and  
Tosikazu TODA

Tokoname Ceramic Reserch Center,AITEC<sup>\*1</sup> Seto Ceramic Reserch Center,AITEC<sup>\*2</sup>

Department of Industry and Labor<sup>\*3</sup>

2005年に瀬戸市海上地区等で開催される愛知万博のための土産品として、瀬戸地区に温存されている産地技術を生かし、染付ペンダント等のアクセサリー及びアクセサリー関連用品を7種、ミニテープカッター等の卓上用品を5種、どんぐりの水やり具等の園芸用品を3種、ストローホルダー等の食卓用品を5種、肩たたき等の健康用品を2種、計22種をデザインし試作した。

## 1. はじめに

2005年に瀬戸市海上地区等で開催される愛知万博は、1500万人以上の来訪者を迎える一大イベントであり、陶都瀬戸を世界に発信するまたとない好機である。もの作りの拠点や流通システムが国際的に大きな変化を遂げた今日、地区業界では新たな瀬戸焼の目指すべき方向が模索されている。愛知万博を機に、瀬戸地区に温存されている鑄込成形や染付などの多様な産地技術を生かし、焼物の魅力溢れる土産品を開発することにより、産地活性化の一助とする。

## 2. 実施内容

### 2.1 土産品の調査

土産品売場における現状を調査するため、名古屋城、名古屋テレビ塔、名古屋空港の3か所について聞き取り調査を行った。調査結果は次のとおりである。

年間来訪者は、名古屋城が約100万人で、修学旅行者から年配者まで幅広い年齢層が訪れている。テレビ塔は約20万人で、男女とも幅広い年齢層が訪れている。空港は、国内線が約650万人、国際線が約400万人、計1050万人が訪れている。

3か所の総売り上げから、来訪者一人当たりの購入金額を計算すると、一人、約300円程度の金額になる。

3か所を通じて、それぞれの来訪者の年齢層を大雑把に分けて子供(小学生)、若者(20歳代前半まで)、年配女性(20歳代後半以上)、年配男性(20歳代後半)とすると、土産に関心があり、現実を買うのは年配が多く、いろいろ土産を時間をかけて選ぶ傾向がある。

子供はキーホルダーなどの小物で価格の安いもの、若

者は、地域限定グッズやユーモア商品に興味を持つ。年配男性は1種類の品をまとめ買いしたり、思い切った高額商品をまれに買うこともある。帰省時や旅行をしたとき、土産を買って近所に配る等の習慣は減少傾向にある。このため、特に空港では、土産品売場を縮小してコンビニエンスストアに改造し、時代のニーズに合わせている。

食品と食品以外の品とでは、食品の方がよく売れ、空港の場合、土産品全体に占める食品の割合は60~70%である。また、価格帯は1000円前後で、家族の人数の減少した今日、中味も個数の少ないものに人気がある。売り上げの上位を占めるのは、携帯ストラップ、キーホルダー等サイズの小さいものである。

愛知万博は国際博覧会であるところから、海外からの来訪者も予想されるが、今回の調査で3か所に共通して言えるのは、外国人には土産を買う習慣がなく、土産の購買層のターゲットとしては、あまり期待できないということであった。

### 2.2 コンセプトの設定

新瀬戸焼商品とは、産業経済のグローバル化による国内産業の空洞化を阻止するために、瀬戸地区に継承されている技術を商品に活かした焼き物(多品種適正量生産で高付加価値な商品)ととらえる。

ターゲットは、陶磁器製の土産品に一番関心があり、買う可能性の高い、20代後半以上の女性を中心とする。

試作品のコンセプトとしては、経済性、生産性重視のデザインだけでなく、コスト上の問題から避けていた、こだわりのあるデザイン、即ち、反復生産が可能であれば手作り品や、型どりがやや複雑になる品にも取り組む

\*1 常滑窯業技術センター 応用技術室 \*2 瀬戸窯業技術センター 応用技術室 \*3 産業労働部 産業技術課

ものとする。したがって、価格設定も、もの作りの復権により高められた、商品価値に見合ったものとする。

愛知万博のテーマの一つである「自然の叡智」を表すため、「自然」をテーマに取り上げる。アイテムは、主たるターゲットである女性を意識して、アクセサリーやその周辺グッズ、様々な卓上用品や、定着した人気を持つ園芸ブームに対応する園芸関連用品、健康に関する意識の高まりに着目した健康や、癒しのための用品等を取り上げる。また、土産品の性格上、「ポケットに入るもの」といった、小さなサイズのものを中心とする。

エコデザインの観点から、有害物質を使用せず、複合商品は廃棄の際、分離しやすいデザインにする。また、長く大事に使える商品をデザインする。

素材は特に限定せず、磁器、白磁、陶器等様々な素材を用いる。

製造技術も特に限定せず、鑄込、ろくろ、たたら作り、反復生産可能な手作り等各種の技法を用いる。

### 2.3 ペーパーデザイン及び商品化と試作

本研究は、企画段階から企業と共に商品開発を進めることを目的とするため、中間発表として 38 案のペーパーデザインと 7 点の試作品を提示した。

ペーパーデザインは、ペンダント、アクセサリーボックス等装飾品関連の小物を 9 案、鑄込キット、ミニテープカッター等卓上用品を 9 案、水やり具、どんぐり栽培キット等園芸関連用品を 8 案、ストローホルダー、下戸のための猪口等食卓用品を 10 案、肩たたき等健康用品を 2 案の計 38 案である。試作品は空気圧利用のアイデア玩具、ミニテープカッター、メモホルダー、水やり具、ヨーグルトメーカー、ストローホルダー、下戸のための猪口の 7 点である。

これらのアイデアのうち、どんぐりの鈴ペンダント、ミニテープカッター、香立て(椿)、どんぐり栽培キット、三口花器、下戸のための猪口、ペットフードの計量スプーン(犬)、同(猫)、の計 8 案が、業界組合を通じて採用され、商品化されることになった。

### 2.4 デザイン意図

当所の研究試作品は、2.4.1～2.4.5 の 22 種で、以下に、用品別に分類し、試作品の紹介と、[ ]内に製造方法を示した。

#### 2.4.1 アクセサリー及びアクセサリー関連用品

ターゲットの中心を女性に設定し、ポケットに入る小物をイメージして、ペンダントやアクセサリーボックス等、アクセサリーに関するものをデザインした。

##### ・染付ペンダント A 写真 1

木の葉や木、小石をイメージした形状のペンダントトップに、海上の森の植物を、鮮やかな染付で表した。

[白磁、鑄込成形、染付、透明釉、1290 還元焼成]

##### ・染付ペンダント B

やきものと皮ひものコンビネーションを生かしたデザインとした。

[強化磁器、鑄込成形、染付、石灰亜鉛釉、1280 還元焼成]

##### ・猫のピンブローチ

陶器の質感を生かし、素朴で可愛い猫を表現した。

[陶器、鑄込成形、下絵付、石灰亜鉛釉、1280 還元焼成]

##### ・アクセサリーボックス 写真 2

日常最も使用頻度の高い指輪 1～2 個を収納するもので、2.4.2 卓上用品の中のミニテープカッター、メモホルダーとのセット商品である。

[着色磁器、鑄込成形、石灰亜鉛釉、1250 酸化焼成]

##### ・ポケット鏡 写真 3

さりげなく身だしなみをチェックするため、ポケットやハンドバッグに忍ばせる小型の鏡をデザインした。

[着色磁器、鑄込成形、石灰亜鉛釉、1250 酸化焼成]

##### ・ボタン

磁器の質感をボタンに取り入れた。

[磁器、鑄込成形、白マット釉、1280 還元焼成]

##### ・携帯ストラップ 写真 4

身近に見られ、親しみのある昆虫をテーマに、ノベルティとして可愛らしく表現した。

[せつ器、鑄込成形、白化粧、透明釉、1280 還元焼成]

#### 2.4.2 卓上用品

土産品にふさわしいよう、比較的小型の卓上用品をデザインした。

##### ・三つ指蛙

蛙と座布団、メッセージも書くことができるのぼりを組み合わせ、ノベルティとしての楽しさを表現した。

[せつ器、型起し、鉄赤釉、1280 、還元焼成、織部釉、1250 酸化焼成]

##### ・ミニテープカッター 写真 5

プライベート用の小型のテープカッターで、半球状のテープ押さえにより、水平に置いたテープを固定する。

[着色磁器、鑄込成形、石灰亜鉛釉、1250 、酸化焼成]

##### ・メモホルダー 写真 6

スリットにメモを挟むもので、デスク上のアクセントになることを意図した。

[着色磁器、鑄込成形、石灰亜鉛釉、1250 、酸化焼成]

##### ・香立て(椿) 写真 7

陶器の素材を生かし、白、紅、絞りの椿を表現した。

[陶器、たたら成形、てびねり、白化粧、石灰亜鉛釉、1280 還元焼成、800 上絵付焼成]

#### ・ 鑄込みキット 写真 8

万博来場者に、瀬戸のやきものを体験していただく産業観光にふさわしい土産物を意図した。石膏型と家庭用オーブンで焼ける鑄込用粘土をセットして、瀬戸のやきもの技術を体験する。

#### 2.4.3 園芸用品

豆盆栽等の園芸ブームに対応するよう、園芸用品をデザインした。

#### ・ どんぐりの水やり具 写真 9

里山の身近な植物のどんぐりを選び、給水具をデザインした。給水方法は、昼夜の温度差による空気の膨張と収縮を利用したものである。

[せつ器、水やり具：鑄込成形、天目釉、1280 酸化焼成、受皿：型起こし、1280 還元焼成]

#### ・ ふくろうの水やり具 写真 10

海上の森の動物からふくろうを題材として選んだ。給水方法は、大気圧を応用したものである。

[せつ器、水やり具：鑄込成形、天目釉、1280 酸化焼成、受皿：型起こし、1280 還元焼成]

#### ・ ろくろ目・布目水やり具

ろくろ目や布目といった自然な風合いを石膏型に写し取った。給水方法は、昼夜の温度差による空気の膨張と収縮を利用したものである。

[せつ器、鑄込成形、石灰亜鉛釉、貫入釉薬、1280 還元焼成]

#### 2.4.4 食卓用品

土産品としてふさわしいよう、小型の食卓用品をデザインした。

#### ・ ストローホルダー 写真 11

使用時には置いたストローが転がらず、飲むときにはストローが持ちやすいホルダーを、身近な親しみ易い昆虫や小動物を題材にデザインした。

[せつ器、手びねり、下絵付、透明釉、1250 酸化焼成]

#### ・ 下戸のための猪口 写真 12

宴席を盛り上げるための小道具を意図した。飲む振りをして傾けたり、一杯にお酒を注ぐとサイフォンの原理により、注いだお酒が底の部分へ流れ込む。

[磁器、鑄込成形、染付、透明釉薬、1290 還元焼成]

#### ・ 箸置（桜） 写真 13

桜の花びらの形を印象づけるよう、サイズをやや大きめにとり、箸がゆったりと置けることを意図した

[着色磁器、鑄込成形、石灰亜鉛釉、白マット釉、1280 還元焼成]

#### ・ 箸置（笹舟）

涼しげな笹舟の形状を取り入れ、夏の季節感を表した。ちょっとした珍味を添えることもできる。

[磁器、陶器、鑄込成形、御深井釉、1280 還元焼成、青銅マット釉、1250 酸化焼成]

#### ・ 箸置（花便り）

季節の花やハーブの葉等を挿して、食卓に自然を添えることができる。

[磁器、鑄込成形、乳濁釉、1250 酸化焼成]

#### 2.4.5 健康用品

健康に対する関心の高まりを考慮して、やきもの重量や質感を生かした健康用品をデザインした。

#### ・ 肩たたき 写真 14

働く女性をターゲットとし、瀬戸の碍子製造技術に染付の味わいをマッチさせ、実用性と装飾性を追求した。

[磁器、中実鑄込成形、染付、透明釉、1300 還元焼成]

#### ・ ニギニギ 写真 15

働く女性や高齢者向けに、手のひらマッサージの要素と飾りものの要素を持たせた。

[磁器、中実鑄込成形、染付、透明釉、1300 還元焼成]

### 3. まとめ

以上 22 種のデザインを、写真のとおり、形状、釉薬等にバリエーションをもたせ、200 点余試作した。

これらセンターと業界の試作品は、業界の流通品と共に、平成 15 年 3 月 19 日（水）から 22 日（土）まで、（瀬戸焼で楽しもう、応援しよう「愛・地球博」）のタイトルで、愛知県デザインセンター（名古屋市中区丸の内 3-1-5）にて展示会を開催し、来場者より個々の試作品のヒヤリング調査を実施した。この結果を参考に、研究成果を地場の土産物開発に反映させたい。



写真1 染付ペンダントA



写真2 アクセサリーボックス



写真3 ポケット鏡



写真4 携帯ストラップ



写真5 ミニテープカッター



写真6 メモホルダー



写真7 香立て(椿)



写真8 鋳込みキット



写真9 どんぐりの水やり具



写真10 ふくろうの水やり具



写真11 ストローホルダー



写真12 下戸のための猪口



写真13 箸置(桜)



写真14 肩たたき



写真15 ニギニギ